

「夢」

（不とう不屈・希望・勇氣）

学年：第6学年 18名

指導者：大睦 浩美

糸崎小学校で育てようとする資質や能力及び態度

* は今年度の重点項目

【知識】 情報

【スキル】 ①課題発見・解決能力 ②思考力・判断力・表現力 ③コミュニケーション能力

【意欲・態度】 ④主体性・積極性 ⑤回復力 ⑥協調性・柔軟性

【価値観・倫理観】 ⑦自らへの自信

1. 単元（主題・資料）について

本時の主題は、「努力の尊さ」である。道徳の内容項目、A－（5）「不撓不屈・希望・勇氣」を受けて設定した。目標を立て努力することは、夢や希望の実現につながる。この自己実現しようとする向上心は、前向きな自己の生き方につながっていく。そのためにも、夢や希望の実現のためにあきらめず努力することの大切さについて、児童が自分とのかかわりで考えを深めていくことが大切である。どんな自分になりたいのか目標を立てて、難しくてもそれに向かって努力することの素晴らしさについて感じ方、考え方を深め、実践意欲につなげたい。

しかし、夢に向かう過程で挫折を経験することがある。児童は、目標を立てて努力しようとしても、困難や失敗に出会うとあきらめてしまうことが多い。壁や挫折を乗り越え、目標に向かって努力することがどんな意味をもつのか、その尊さ、素晴らしさを考えることが大切である。そして、それがやがて、生きることへの希望や新しいことに取り組む意欲につながっていくということに気づかせたい。

本学級の児童に、「自分の夢」についてアンケートを取ったところ、89%の児童が将来の夢や目標を持っていることが明らかになった。それらは、野球やテニスなどのスポーツで活躍することであったり、医師や教師など具体的な職業に就くことであったりと、さまざまなものである。高学年は、高い理想を追い求める時期だと言われる。しかし、目標に向かってくじけず努力を続けることは難しい。無理だとあきらめてしまったり、がんばることのつらさから逃げてしまったりする経験はどの児童にもある。学校や家での生活を見ても、一時は努力するものの、「やっぱり、だめだ。」と、くじけてしまう姿も見られる。児童が夢を実現することも努力を積み重ねていくことも容易ではない。

生活アンケートの結果においては、「自分の夢や目標のために努力している。」という質問に対しては、83%の児童が「そう思う」と回答しているものの、「がんばれば、難しいことでも解決できる。」の質問では、56%と数値が低くなっている。このことから、意欲はあるものの、難しいことに対しては前向きになれない児童が半数近くいることが分かる。

そこで、夢や希望を抱くことの大切さとともに、困難さを感じることや、時には挫折することもあることに気づかせ、たとえくじけても、もう一度立ち上がり、努力を続けようとする心情を育てたい。

指導の手立て

導入では、価値への方向付けを図るために、児童の現在の夢について発表し合う。

展開の前段では、資料を3つに区切り、適時発問をする。その際、「ぼく」と同化して心情の変容をつかませるために、いつも「ぼく」がどのように感じたか問う。「ぼく」に寄り添いながら読むことで、「ぼく」が、挫折を乗り越えて夢に向かって努力する中で、何を感じ、何を学んだか、児童にも共感させたい。

展開の後段では、「夢があったからこそ、今のぼくがいる。」という言葉の意味を考え、話し合うことを通して、努力の尊さへの考えを深められるようにする。その際、小グループで話し合うことで、自分の思いを表現したり、多様な考えへの理解を深めたりできるようにする。また、今努力していることを振り返ることで、自分が少しでも成長していることを実感できるようにする。「ぼく」の生き方を通して努力を続けることの尊さについて考えを深められるようにしたい。

終末では、自分自身をふり返って考えさせ、うまくいかないことがあっても努力を続けようとする道徳的実践意欲をもたせたい。

2 目標と評価規準

観点	目標	評価規準
	○あきらめず努力する「ぼく」の姿を通して、目標に向かって、失敗や挫折にくじけず、希望を持って努力しようとする心情を育てる。	○目標を立て、希望や夢に向かって、あきらめずに努力することの大切さに気付いている。

3 本単元で育てる資質と評価規準

	資質・能力・態度	評価規準
【知識】	知識	「ぼく」のおかれた状況を理解している。
【スキル】	① 課題発見・解決能力	「ぼく」の気持ちを考えている。
【意欲・態度】	④ 主体性・積極性	自分の考えを持ち、友だちの意見との違いを比べながら考えている。
【価値観・倫理観】	⑦ 自らへの自信	「ぼく」の決断を自分と結び付けて考えている。

4 指導計画とルーブリック

時	学習活動	ルーブリック		資質	思考ツール
		S	A		
1	「ぼく」の気持ちを考えよう。	○努力を続けることの大切さと共に、自分自身の成長についても考えている。	○努力を続けること大切さを自分の事として受け止めている。	① ④ ⑦	コンセプトマップ

十月十九日（木） 五校時

指導者 大畦 浩美

三原市立糸崎小学校 六年

道徳「夢」

授業構成図

本時のねらい

夢に向かって努力を続けた「ぼく」の姿を通して、努力を続けることの尊さへの考えを深め、前向きに努力をしていこうとする心情を養う。

（不とう不屈・希望・勇気）

☆キャリア教育の視点

目標に向かって努力することの大切さに気付いている。（前向きに考える力）

目指す子どもの姿

S 努力を続けることの大切さと共に自分の成長についても考えている。

A 努力を続けることの大切さを自分のこととして受け止めている。

ふり返り場面

Aだと判断した児童の発言

夢を実現するためには、努力とあきらめない心が大切だということがわかった。

Sになるためには

たとえ、夢がかなわなくても努力は自分を成長させてくれることがわかった。自分も自分や応援してくれる周りの人のために努力を続けていきたい。

5 授業構成図

見通しや実行方法を発想する場面

⑥「夢があったからこそ、今のぼくがいて、これからのぼくがある。」という言葉について考える。

◆資料から考えたことを整理するために思考ツールを用いる。

T「夢があったからこそ、今のぼくがいる。」という言葉は、どんな考えから生まれた言葉だと思えますか。☆

C夢があったから努力を続けることができた。

C努力を続ける中で大切なことに気付くことができた。

C野球をする中で身に付いたことが今の生活にも生きています。

C夢に向かってがんばることで新たな夢をもつことができる。

⑦本時の振り返りをする。
◆価値に対する自分との関わりを考えさせるために思考ツールを用いる。

T「夢」の中で心に残ったことは何ですか。また、夢や目標に向かって、自分はこれからどうしていきたいですか。

C練習ができなくなっても、やる気をなくさずに人の世話を毎日続けたことがすごい。ぼくも、くじけそうながあってもがんばっていきたい。

C本気で人の世話をする中で、規則正しい生活をし、思いやりがあり、礼儀正しい人が野球が上達すると気付き、人間的に成長しているところがすばらしい。C夢がかなわなくても「すがしがほしい」と思えるところがすごい。ぼくも「やり切った」と言えるように最後まで頑張りたい。

対象と既有的の知識とを関連づけ、対象が生じる原因を類推

問題（課題）を見出す場面

①努力が続かなかった経験を思い出そう。

T目標を立てて始めたのに、途中でくじけてしまった経験はありませんか。

C習い事が続かなかった。

C毎日走ろうと決めていたのにできなかつた。

C家の手伝いを忘れてしまった。

②課題をたてる。
努力を続けることの大切さについて考えよう。

③ルーブリックの設定をする。

Tこの時間のAとSを設定しよう。

◆ルーブリックを考え、みんなで共有する。

C努力を続けることの大切さが分かつたらA。

C大切さがわかり、自分の成長について考えられたらS。

◆「今の自分」について整理するため、思考ツールを用いる。

④何度も挫折を繰り返しながら、夢に向かって努力を続ける「ぼく」思いを考える。

T入団テストを受け続ける「ぼく」の思いを考えましょう。

C夢をあきらめたくない。

C今まで苦しい練習を乗り越えてきたのだからきつとできる。

Cこしが痛いときも、だれもしない仕事をいっしょうけんめいやってきた。その日々を無駄にしたいくない。

C誰にも負けないくらい、野球に打ち込んだ。あきらめなければ夢はきつとかなう。

⑤夢をかなえることができなかったのに、心がすがすがしいのはなぜか考える。

T夢に幕をおろしたのに心がすがすがしいのはどうしてだろう。

Cやりきったから。

C自分のできることは全部やったから悔いはない。

C今までの苦労は無駄ではなかつたと思えるから。

C悔しい気持ちはあるけど、一生懸命やったし、自分の決めたことだから後悔はしない。

C人間として成長したと思えた。

C夢はかなわなかつたけど、大切なことに気付けた。

対象と既有的の知識との「ズレ」を認識

思考スキル「関連付ける」
↓
思考ツール「コンセプトマップ」

